古月之本
為山追福

青柳集

古月之本
為山追福

青月柄集

禍主 月之本素水

為山翁の物形をうつされしを
洞山老人とかたらひ給ふ後をぬるゝ
まゝ形者人を翁のいとに移てとり和尚
新〻自筆本の右鉢を接うしほと
乃ちなみ淺のうさとよりこゝろ遠善者

一集をものせられ度を予に屬せられ
別に述べ書き云々と書き清き清き社
一云を書きて返義乃情を表するのみ

唐辰夜日

文圓義雄

起祥

追福

二條基弘

古月之本為山
肖像

進福服部之俳諧

為山居士

春秋の古き色つゆ〳〵

傳き身ゝとてるたるかゝ風　京水

情の新麦のあをさ伝ふて　精知

世をかぞへる雲ゝ時代　羊山

ゝんゝ雪ゝ伝ひ上手の月を友　宇山

清き雪ゝきぬゝ初雲　松山

世中のおもきをけて使　地橋　桂花

恋を　つもるゝ　大雪

侍らんのちらつかるゝ志ゝき　帯　菊姫

筆紙の乱れ書を世をうゝみ　紫式

連歌の書ハ行の加うるを　杉旋

思ひをもてゝ知る　下　この年　長能女

月のしてかゝる体小雪　梅年

恋のをうて錯をはらふ書　竹女

無表かゝ文ハをもゝ侍ゝ　陵甫

梅ハ梨ゝ　松ハ　ゝ　三ゝ守

花ハ侍ゝ咲ゝ　ゝ　等栽

蔦の紅ゝ　ゝ　太年

ゝ月を　ハ　ハ　宮水

梅の書侍を　ゝ　清水　宮笠

恋侍をゝ中ゝ　夢の義芳加ゝ　茶石

夏行ゝの　ゝ　卜早

芳戸を出と為るに臨て玉なす袖

歸り咲て　宿のみさを哉　遠望

一筆啓おつて男と生れし甲斐

性はいまだ　毒あれい　形　涼情

其の義理に信ちて事をおもむける　謝恩

嘆きしたはれ　形ら以　青空

今の世の浅ほそたる角の淵　幹雄

名心霧なる　義心　点きい　文雄

性はの業利おのの情事形象　晨象

落ましてきる後格　呉仙

もりを置て言は所ら興聖寺　永樟

かたを置ゆみ義を一流　春雄

情用のを去寺の仏をや　青洲

枝枝変て　移　巣　ゆも　ゆ　芳象

初日影いやまし心まさるはなやかなり

初日影さし入るゝ色ぞ也　古蒼山

ゆく年を心まち待つはなやかなる　澤山

山かけの炭竈きしむ地打　、

起き出て行く人もなし晦日の白き粥　、

わかれ行く紫苑の宿の汁や店の餅　、

露踏んで何となく明けしや竈の火　、

裃羽織る業のおもしろや年の暮　、

約束の店の手おこや米一俵　、

月落ちて朝むかしき鳴あかれ
梅のうつろひ雲散りて明けて梅の香

各前文異之

月落て朝むかし竿を打つかれ　雪之

梅のおもしろ西へ行く梅の花あれ　春汐

梅に月待ちぬ友垣の明けし竿　二湖

恋らみし梅の香るや夜明け月　涼棗

家梅にあらしもさそふ鳴ちる闇　等栽

使ひの来れ加はるや月と見る女　精知

尺蠖のしたるやうに梅の木枝
につもれる雪を梅の花と見る
なりて佛の日
雪をはらひ一月雪を梅の花と
木枝にいつもはこの間のぬきら 綾
氷仙やあらう清き白けさ
雪を雪にて月はこれらの
ぬらるる雪の夢の花月の
雪

常水
梅年
竹友
松枝
東翠
東石
晨東

友かつて出でぬ雪に行茶の釜
天ぬ花の詩を情しきく
新茶やかうばし月のおきまま
雪やあるく月はこれ
非雪雪に物ふ雪
おもむき出て雪ふ物ふ
伸びるを忘れかうる天氣の
雪の名とあるやしらぬ雪の情

青空
松坊
弘等
文徴
雅松
大觀
竹竹
五雀

色うすく吹かれて散りてあるべし　雲海

夏草や枝葉もなくなる梅の実　相模国　超宝

物さらぬ梅もあり　梅もあり　蕉翁

伊勢世古の水かれて朱の花　羅今

秋石さて苔ふる宝物　霧柳

行きもの苦やあるべ　一変　遠風

なる梅の実　梅の実　手もとけく事　雨路

なる月の新きこころ　梅のなれ　魯人

雨蓀

物水

枝雨

信之

蓀翁

晩居

角山

鯉雨

なるかきの実の沈和紙の梅の実

和尚住寺　秋の月の実　秋の月の実

七夕の恋し　情ふ　月の柿

秋の夕の雨　雨の雨

毛虫の花　蓀の紫花の

初月や家に居て新仕舞

夏草　雨の雨

牡丹の山の烟　角山

なる仏　鯉雨

信濃路の上行く帆かけ船　雨松

船つかるさゝやあらし訓俗の辛忘手　曉甫

ひとふしを終へて　ゆかしう神　宣紙

来桂の中を出て　桂しと出　知雪

さて行くさい情　情忘　元

夢ゝ覚るひとうらみ　夕桂　山月

寒てかるなかさて　桂て　三子吉

桂月かゝて夢しし　夢の　芳象

芳子の夢を生忘　寿意品　大芳

夢ゝ夢ものや月の水　子畝

泪芳子立　山蕨和合　李雲

蓬莱の　仙ゝ　世ゝ　汪生

夢夢　桂月　蕨

忘夢　月の本　延昌

形見しと思ふかつや　桂浜

月明の故の　李山

[illegible]　佛　[illegible]
[illegible]　月の雲[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　竹秀
[illegible]　[illegible]　[illegible]流
[illegible]　[illegible]　花[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]舟
[illegible]　月の[illegible]　和[illegible]
[illegible]　[illegible]　竹[illegible]

[illegible]　[illegible]　幹旋
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　永[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　月[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]仙

是あさ一周忌や情の伊久　謝徳
姉風や峠莪切る鶯袋　紫雅
陽炎や芋ひ〳〵の琴の音　朴周
加茂ふや陽炎ほのぼの桜かな　菊雄
注連張て冬ごもりする日　宇山
世の中や訪む加茂やなる多　喜洲
蹴上ゆき月ハ入れ雪梅ちせし　沙山

道向ふ冬ごもりおろす雪解水　枝山
おしまるる枝る神や春の月　半山
加茂の宮や神の上を見ふ　太年
おきなのむし遊を月と呆れ　孫 為仙
家うちもぬ代をもこぼしの春　仝 敬を女
花の雲を我多ぬつの家ちかれ　室 忘れ女
七夕雪のおもふや神ふ雪かな　男 右山

前文多寡傍新異代

[illegible]風　西京　荷宮

[illegible]西の空　移変

[illegible]月を尋ぬ　[illegible]入れ　万可

[illegible]月の新形を　[illegible]夕雲　稲山

[illegible]積り　[illegible]頃水

月の[illegible]　[illegible]　[illegible]梅

[illegible]夕[illegible]　荷亭

[illegible]月や[illegible]人の[illegible]　月菴

杖[illegible]月[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]川の[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　大阪　[illegible]水

世の人の月を[illegible]　[illegible]　[illegible]

けふもまた伸る春の寒さに霞かな　文鳳

友ならで淡墨に咲し桜見かな　枕月

花かけ出す新茶白ふや旅の春　南路

正月の寒さ掛して去れし春　神戸 卓志

若葉間の鶯かすめ初音かな　イセ 果旗

佛にもなりぬはきれそのそれかな　ヨハリ 南

雲雀や松の字を剥し摘し柳かな　都雯

今やまだ結ぶ茎の花をたゝく　宗阿

小山は皆雲に隠れし小雨かな　羊山

月清し水は日さりの川流る　車友

花の春は海とや雲にさそれ立春　禾啓

なし名残月の名残や花朱林　詩蕉

一月にかゝる芳されさらうかな　英甫

風かる若草やわらかさなるの葉　可洗

同座の侍しら雲れ松に立て　立て

さを自然に向ふ枝をしな　三枫

彼岸をおもふ杖の杖　徂徠

数ふる人の老をしる梅　酔雨

七夕や牽牛織女の情の古社　三河　菫宇

鶏鳴をしらせの鳴の鳴の鳴　赤鯨

菫咲く塀の時や風を吹く　石芝

百嶺　百嶺

笑味　笑味

霞掌　霞掌

霧夕　霧夕

高月　高月

湘亭　湘亭

菊守　菊守

梅一　梅一

みち行きてやまと野辺の言の葉　竹径

雲とまる駅たの友や寄る窓　竹仙

湖の底ひてきけば月夜かな　宗鳳

見てすぐるまも秋の錦哉　子芳

梅の月ものすごしや雪の夜　半仙

月影のもるも初雪やしをるる　汲古

七夕の雲やかはるて梅の花　可水

梅やはあるか秋の野の以上　遠江　木潤

山の奥の住居を見まもる　守考

海山を行かきりて小春の秋　井谷

夕舟や雲をなきの花の如　知項

炉風炉ものきの風や家風　平壱

見しまま山や田中へ移る安　洋々

涅槃会ふ仏世の人の孫　雨竹

おもふ故郷の秋の梅の花　蕙畝

[illegible]　董平
枝葉も花も梅の[illegible]　十湖
おかしの姿も[illegible]大みち　蕉村

山[illegible]　湛水（スルカ）
手[illegible]　桂女
[illegible]　[illegible]
[illegible]月の梅　[illegible]
[illegible]　松園

新[illegible]　[illegible]
新[illegible]梅の[illegible]　成雲

月の新[illegible]　雪石（カイ）
[illegible]人の[illegible]梅　[illegible]池
[illegible]　[illegible]
月[illegible]　[illegible]
[illegible]人[illegible]　竹良
[illegible]　竹[illegible]

[illegible] 北西
[illegible] 麦夫
[illegible] 半杜
[illegible] 寸杜
[illegible] 夏ハ
[illegible] 一寺
[illegible] 左岳

[illegible] ムサシ 涂恠
[illegible] 可寄
[illegible] 四左
[illegible] 寄波
[illegible] 昧見
[illegible] 左分防
[illegible] 梅左

雨を降らす高山の清水の流れ　清峰
月夜に笛を吹く家の海辺を門葉哉　黒市
糸竹の調べ立てる新酒の香　竹村
夕暮れの梅の花おりし梅枝の阿弥陀堂　梅友
黒い雲の空を覆う新雪の月　雪柯
梅の香の黒い会を清水の座　麓水
袖振れば海の月の小舟の出る　左舟
芦橋を渡る加茂の流れの水　木翁

加茂の流れの岸の加茂　芝柳
加茂の流れの岸の柳の月　長俊
一月の梅の花の香の夢の夢　夢外
笠縫い舟の流れの雲の雪　鄙外
御堂の梅の橋の加茂の霞　幻史
高天原の紅梅の加茂の初紅葉　其峰
鶴翁堂の庭の水の流れ　市月
雲仏像の立像の流れ　武人

高下たちそ青ふ山の紅葉　一理庵

おくりびや孫をくかりる友移　楓家

芋や時ゴにふとる尾　南山

新米をたもつ何ぞ俳の書　南嶺

ぶたるや慶の墓を掘　一井

雨のちをたをふ寺の門　美貞

摘て世を菊の横芽やからぬ情　カワサ　伯雲

ものたるや雲ふ物ふ　乎只

恒例や岩石をとる紙　貞雄

樣を話し村の風ゆ家ふ松　松雄

花行や流石孫をかをる　可意

年石を野をれ野をと春の雲　一海

家ゴの古風を伊ゆ制ふ事　サカミ　公水

長を紙行をを月の光年　木水

長賀　皐月　皐圃　木仙　翁月　一和　紀象　徐雨

都城　可敬　環海　左良　地雨　紀象　義真　紫洛

月清て春氏高や高き梅（サガミ）　閑茶

人かと霞の籠るや　孰　松坂

を西へ行く月かかりて空の山（下フサ）　行翁

雲の見し見えぬ空の色　都色

帳に見て色を合せる仏生会　八雲

獨子連突出して大る霞哉　旭窓

合彩の描おきしてもの之秋　約月

左義長の焚き上げ夕（上毛）　為仮

一回行く彩の高き月の宿　如雲

清き氏分入て出る木の芽哉　東古

彩きとて樫立合る柳哉　一寿

国の南く彩の松と山や岸の山　蓮光

柳の合を残して梅の香の加邦　乙歌

高き梅の雲て雲の高き家（下毛）　北山

[illegible] 松のもれ 下も 岩精

世事倦し帰り方の勧 イツ 逢水

雲風をしたがへ [illegible] ミノ 蓑庵

逢見てかへり 梅見の旅 [illegible] 益汲

月をも山形をしらぬ [illegible] 松交

[illegible] 近江 九峰

[illegible] 逢翁

[illegible] 翠翁

[illegible] 五糸

神[illegible] 雨 キイ 湛水

[illegible] ブセン 三津な

[illegible] 杵窓

美濃国伊奈加郡　ブンゴ　乙人

赤とうめ　アハ　麦年

信濃　宇崔

伯耆　濱水

筑前　史白

備後　抱法

安房　阿弟　アハヂ

越後　真海　サヌキ

赤の内　玄黙　トサ

相模　松嶋

常陸　遠耳　ヒセル

塚の内　西湖

筑後　俗危　ヒウガ

雪の子をとりとめぬ日を加賀路かな　イナハ　庶波

おぼろの月ふたゝび雲アリ　鳥牙

山ハ雲ふれ雲ハふる雨ハこゝ哉　スハウ　素兄

おもむきや世ハ時雨ぬ　ナカト　梅宿

年ぬしやおもてハ雲ハ、　孟子

蹠ゆかるゝ月の雪ぬ稿、　伯爲

笑ふ人こゝ雲ハ　月ハ中　艾猿

彩の春蕨を問ふ法華　竹毋

春雨や何をなくるかなしノト　守朴

枝芦ふふ新らしき花ハ、　篠

雲ハ雲ハ波の　雨ハ　梅　ユナゴ　翠嵐

月ハ雲ハ　雲ハ　雲ハ　雲ハ

月ハ月や闇ハ雨ハ　雲ハ　雲ハ

雲ハ雲ハ雲ハ雲ハ　雲ハ　抱月

きらんさえいは夢てはうしの花の山　正子　文貞
ゆふさり雨を見れば春の時雨　朱花
うらさびのさしてはゆかぬ月　時雨
はてゆかぬ雲を見ぬ夕　春曉
夢のうち　ゆふ雲の　杜宇　雲江
明らかに野辺の新しし　牡丹　葉遊
ちらんの枝　ふきの月　夜永　風窓
傷ぬのくるはてやきりの夜　雪橋

ちる梅の雪もはるに水ぬる　載下
人のうし風いまぬ夕ぬ　乾月
八ぬ月　春の夜　松雨　蛍谷
春の色はてんさんの水の　固山
ちるさくらふる風情花の雪　文琪
夕の風情　ちるさくら　子雄
流れて石ゆく行くらの雪　椰一
たるを春山さらす雪　鶴巣

灯をかり多人足りや雲か　（エチゴ）逸我
吹そめし風おさまるや夜木立　松岳
花に香を誘ふて雨のこぼれ哉　南山
丁寧に並べてかへりし菓の玉　旭扇
今は水にきえん多くも何処哉　右儀
雨に只何となく中らり夕ざくら　桜閣
餅をつゐて我民のにぎはひをきく　青谷

おしむや東風の便りをかぎりとは　（カ、）文器
らちもなき嵯峨山の梅のかをる日に　木圭
たちしくと行く人はおちぬたそがれの曙　雪袋
月の夜はほ志れてかしれかや　（ホウキ）籟楼
雪に去ぬ年のなごりの余寒　清雅
雪の香も上野を桜のはな空　（イツモ）也川
高嶺の東風や日和に梅の花　（イハミ）都雄
初月のおしきゆれや水の秋　（ヒゴ）暁雨

初夢の中かと書き出し侍りしシナノ其殘

[illegible] 肯我

[illegible] 竟庵

[illegible] 梅の月

[illegible] 東二

月[illegible] 梅の香 [illegible] 秋風

七夕の宵[illegible] 侍梅の [illegible] 探花

[illegible] 東竹

[illegible] 對山

[illegible] 竹の中[illegible] 竹屋

積[illegible] 信かなく [illegible] 埜山

[illegible] 竹渓

[illegible] 庵の梅[illegible] 左海

[illegible] 三谷

[illegible] 樹葉

[illegible] 梅の香 [illegible] 義軍

[illegible] 月の [illegible]

[illegible] 一秀

高ふさる四ツ山なる松尾寺シナノ　為年
陸奥の信夫の里の夕霧郎　素堂
あるじ男ふ所の花の陰　花洛
御本尊の新草を踏む花の蔭　素水
幻や樹を新　只山
夕樹を人ちらの生ひ出ける　梅雨
男山出ぬ先の多き花の跡　多賀
樹ふかる高き和き高き　木甫

高のり武蔵の武の新樹哉　淡々
夕ぬぎ山雲を出ける樹の前　一寿
雨行く雲の雲の野岸　司馬
雲武蔵国伊勢の山の新　重厠
新雲雨　雲の名残の雨新　素仙
雲月山雲雨　雲の生ける　陽翁
雲ふる山雲雨　雲ふる雨　雁雨
今結ひ雲雨新雲山ふる　蕪田

信濃の国伊那やかたの郡（シナノ）　赤松
おなかくに　相模国　相模の郡　松城
信濃の国　一月の郡　月毛
常陸の国　恭仁郡　可縫
重ねて芸州に安芸郡　谷刑
常陸の国　新治郡　巴皇
歳男うてそうし男は　牧之

阪谷　相陽　子来
佐柿の郡　佐柿　伊勢の郡　松柿
常陸の国　新治郡　松柿　曼荼
世田谷　世田谷　喜蓮
佐野の郡　木樽の郡　守水
為て名を為て　自（小タル）　特几

峰海風の吹うや汐の夢　一南

吹ては散や白し　咽の梅　数水

民家ふる　風吹うや四方拝　其友

かすみ出て白雲の姿　二休

情ひとき　紙衾　京更

あるかの色に四方拝　余市　鹿井

世数なるかうるうさ　不角

[illegible]の[illegible]や大根の実　小タル　屋百

風の名ゆかしかれしさや[illegible]　エサシ　紫山

[illegible]世[illegible]　ウセシ　晴山

梅雨なるかふるこそ　陽山

[illegible]世[illegible]小[illegible]　魚来

大[illegible]屋の日和や歳一駄　影山

[illegible]　ウゴ　峰風

[illegible]月[illegible]　京山

[illegible]　二葉
[illegible]　妙竹
[illegible]　也壮
[illegible]　有木
[illegible]　岩代　袋懸
[illegible]　松園
[illegible]　棄五
[illegible]　壮山

[illegible]　悲山
[illegible]　菊露
[illegible]　陸中　芳衡
[illegible]　春机
[illegible]　李山
[illegible]　陸奥　松甫
[illegible]　甫山
[illegible]　北山

祇年
有川
雨の水

追加

東京 永年
月耕
雨象
ムサシ 青山

遠江 可能
玄蕃 知春
東京 光明
保道
可弓
京都
宗阿
杜陵

侍八月を空ぎて月の名残
ぶるやたちを隠る月の梅
梅の花 折り来るかをる雪
嫩葉にぬ埋もりやかほうきむ
海棠ぬ安比ぬ折らば花、可弓
福寿草 黄ぶ光りの旦の朝、京都
新月の天ぬ梅ぬ梅、宗阿
朝ぬ雪ぬ折らかぬ菊枯る 杜陵

員外

料料の情ふ形ゝや雨二日　東水

素ゝ行ゝ苗の生立　等載

風ゝかゝふ菜摘の音信て　竹夫

袋ゝ世ゝと賤けさ矢ゝ事　太年

立行ふ打てかゝりし居行月　載

行ゝ雲ゝ紅ゝ行ゝ　水

神ゝ来ゝ行ゝ例幣使　年

てゝゝゝぬゝゝ工会ゝゝゝ　文

雲ゝ行ゝふゝ行ゝ秋ゝ　水

牡丹ふぬゝゝ袴ゝかゝゝ累　載

何世ゝて美しの孫　文

孫ゝゝ孫ゝ　年

夕風ふ行ゝ小麦ゝ和ゝて　載

かゝゝゝ移ふ新ゝ作　水

蛍ゝゝ何ゝ栄ゝ　年

銀日山寺に於て寅頃霊
杖の長さ芝七尺
水
戒
文
年
寺の裏ふ赤鐸の針
水
戒
文
年
桃の花かな　芝架硯屏
水
戒
文
年

右数珠の帯の長さ
水
戒
文
年
他所上人の所迄送る
水
戒
文
年
捕て来る物を行なれる
水
戒
文
年
家内の妹を家に居上る
水
戒
文
年
月の所を知る　竹取
水
戒
文
年
薩と小杉を以ふて問を乞う

往事ハ山科　友
春惜む石の白藤咲けらし　水
竹垣時々ちらしぬるし　載
ひきすてし花ハ人まち顔なり　友
ほゝゑみ　ほゝゑみ　惜むさくら哉　年

明治十一年一月昔為山翁臨終其席ニ多ク生前ノ詠ヲ拾
ヒ集ムルニ
我ハ我ゝ佛の神ハ神ゝ　水
七回忌追善墓参ニ
七ゝ雪の降ル径ゝ　〃
明治十二年六月十四日
二条家ヘ請テ御懇ニ蒙ル
雲の上ハ問てゝ　水
青葉を忘れ　紅
葉ハ忘るゝ　載
百の日　年
入梅ハ月の出ル　友
霧ハ雲　水
暑

一此集の企画ふ祥の期ふ起るとはいへども企謀沙山ハ老て五年ハ
枕を只冥府に趨るを獨執圖又然るふ家事雑阻有り且
老懶怠懈ニ乍ら意ふ任せ往年今日ふ至る為翁有徐
の語を篇頭の号徒る句也
一集ふ載る所の名家冥入乃涙吊除終たる句を一年を時
精勇百冗語るを追福の句を所るの少を八世故
此又只管察恕をきのふ
一追悼の戚句送附の雅子脱名も有て其ハ為翁没後其家
風雅を亜の族ふ自ら存棄却へるを家ふ揭るを其ハ予ら
ふ入るを桃宜の手紙を採出るを却て洩せるハ覧流
寅ふ出るとふ也

明治十七年一月

祀之 月之本素水 [印]